

# FIELD

東京大学大学院 新領域創成科学研究科 環境学専攻 助教授・博士(工学)

清家 剛

## 『エリス邸のテキスタイルブロック』

みなさん「ブレードランナー」という映画をご存じだろうか。2019年11月のロサンゼルスで舞台に、4年という短い寿命を延ばすために人間に反旗を翻した人間そっくりのレプリカントと、彼らを人間と見分けて倒すことが職業であるブレードランナーが戦う映画である。(いささか省略しすぎの紹介だが。)主人公のブレードランナー・デッカーをハリソン・フォードが演じて1984年に公開されたこの近未来映画には、ロサンゼルス実際の建物が結構使われているのである。

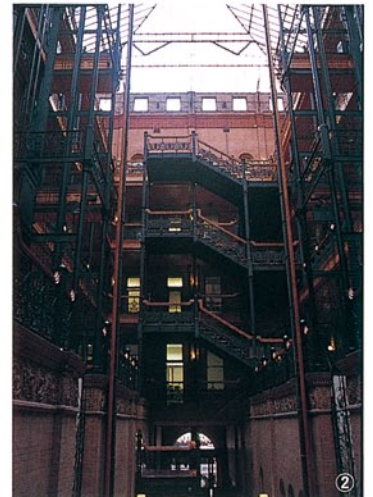
戦闘用レプリカント、ロイ・バティーとの最後の戦いのシーンは、この映画の中で最も印象的な場面である。その戦いの場となったのは、J. F. セバスチャンという登場人物の自宅のあるブラッドベリーアパートである。そこにはトップライトから降り注ぐ妖しい光線に満たされた吹き抜け空間があり、中をエレベーターがゆっくりと上昇して最上階に着くと、そこにセバスチャンの部屋があるという設定だった。ここにいたレプリカントとデッカーは戦うのだが、この幻想的な空間のアパートは、名前もそのままブラッドベリービルとして実在している建物なのである。

1893年、なんと100年以上も前に建てられたブラッドベリービルは、治安のあまり良くない(少なくとも私が訪問した1990年代半ばには良くなかった。)ダウンタウンにあり、外観はレンガと砂岩でできている、地上5階建ての一見普通のオフィスビルである。(写真①)しかし、ひとたび中にはいると、その印象的なアトリウムが人々を感動させる。ガラスの大きなトップライトから取り入れられた明るい光が、上階にいくと少し広くなるとも心地よいスケールのアトリウムを貫く。(写真②、③)手摺りやエレベーターシャフトは、フランス製の繊細な細工が美しい見事な鉄によって構成されている。(写真④)何でもシカゴの博覧会で使用されたものを使っただけ。階段の段板はベルギー産の大理石で、やわらかな色合いを醸し出している。1969年に大修復され、現在もその美しい姿が維持されている

この建物は、実は1887年に出版されたエドワード・ベラミーの2000年から1887年を顧みる空想未来小説「顧りみれば」(原題: Looking Backward、昭和28年岩波文庫、山本政喜訳)に描かれた建物をイメージしてつくられたというのだ。

施主のルイス・ブラッドベリーは、鉱業で成功を納め不動産業に転じた実業家であった。彼は建築家・サムナー・ハントに建物のデザインを依頼したが、結局ハントではなく、その若手、ジョージ・ワイマンに設計を依頼することになる。ワイマンは、「顧りみれば」の中の商業ビルの記述に影響を受けて、ブラッドベリービルをつくることになったという。「顧りみれば」の中の2000年は、社会主義的な平等性を持ったユートピアで、人々は公平な労働環境で、それに対するクレジットを与えられる。買い物は徒歩10分以内にある商業ビルに出かけて行って、実物と説明を見ながら注文すると、クレジットから代金が引かれ、品物が家に届けられるしくみになっている。大分配所と呼ばれるその商業ビルの様子は、次のようなものだった。「私がいっていった大廣間には光があふれていた。それは四方の窓からはいつてくるばかりではなく、先端が百フィートもあるドームからもはいつてきていた。…<中略>…壁と天井には、内部にあふれている光を吸収せずして和らげる

ように工夫した芳醇な色で、フレスコ壁畫が描いてあった。」これがこの建物のアイデアにつながったというのだから、その想像力と創造力に感心するばかりである。



清家 剛 TSUYOSHI SEIKE

東京大学大学院 新領域創成科学研究科

環境学専攻 助教授・博士(工学)

1964年 徳島生まれ

1987年 東京大学工学部建築学科卒業

著書:『ファサードをつくる』『新ファサードシステム』

『カーテンウォールってなんだろう』を共著

最近よく飲むワイン:ルンガロッティ・ルベスコ・モンティッキオ、ミティーク、コルボ・ロッシ

ブレードランナーだけでなく、その後もコマーシャルなど様々な映像に登場するこの1893年に建設された建物は、1887年に出版された2000年から1887年を顧みる小説の中に登場する2000年の建物をイメージしてつくられた。それが1984年に2019年のロサンゼルス舞台として使われているのである。ちょっとややこしいけど、なんだか素敵じゃありませんか。

さて、映画「ブレードランナー」にはもう一つ有名な建築が使われている。実は主人公デッカーの自宅として、巨匠フランクロイド・ライトの設計したエニス邸が使われているのである。

エニス邸は、ロサンゼルス

郊外、ハリウッドの丘陵地帯の東側に切り開かれた住宅地の中にあり、ダウントウンを見下ろす絶好の立地にある2階建ての住宅である。(写真⑤、⑥)1924年に建設されたこの建物は、テキスタイルブロックシステムと呼ばれるコンクリートブロックの構造体でつくられている。このシステムは、中空ブロックの中にモルタルを充填するのではなく、16インチ×16インチ×3.5インチの正方形で薄型のコンクリートブロックの四周に半円形の溝をつくり、ここに鉄筋を通してモルタル・グラウトを注入して一体化させる仕組みになっている。こうしてできる薄いブロック面どうしを2枚合わせるように鉄筋で繋ぐと壁が、4枚で囲むように繋ぐと柱が構成できる。(写真⑦)このように鉄筋によって薄いブロックを縫い合わせるように組み立てるので、「テキスタイルブロック」と名付けられている。1920年代のライトはコンクリートブロックの開発に熱心だったが、その一つの完成形がこのシステムなのである。

テキスタイルブロックには、同じデザインの印象的なレリーフが型どられている。ブロックのタイプは、レリーフ付き、レリーフの一部が穴になっているもの、無地のものの3つとなるが、コーナー部分や

斜めに壁がセットバックする部分が建物にあるため役物が多く、型は40種類におよび、トータル4万ピースものブロックでつくられているという。(写真⑧、⑨)ブロックの型枠は当時アルミニウムと木のものを使っていたそうだが、アルミは戦時中に全てなくなってしまったらしい。骨材には敷地から出た砂を使っており、その仕上がりは、周辺の黄色い乾いた丘陵地帯にとけ込むような色となっている。

「ブレードランナー」の中でエニス邸は、なんと高層アパートとしてイメージチェンジ。実物の1階の入り口から建物に入ると、エレベーターで高層階へ。100mくらいありそうな高さだったが、そこが実物の2階を使ったデッカーの部屋だった。室内には外観にも使われているブロックが壁一面を覆って異様な光景で、十分に近未来を感じさせる。

1998年に訪れたときには7代目のオーナーが住んでいて、内部は撮影禁止。テキスタイルブロックに囲まれた不思議な内部空間は、映画でご覧ください。あ、そうそう、「ブレードランナー」と同じリドリー・スコット監督の「ブラックレイン」(’89年)でも、この建物が使われているんです。若山富三郎演ずるやくざの親分菅井の自宅と



写真① ブラッドベリービルの外観

写真② ブラッドベリービルの吹き抜け(1Fより)

写真③ ブラッドベリービルの吹き抜け(5Fより)

写真④ 繊細なデザインの手摺りとエレベーターシャフト

写真⑤ エニス邸の外観

写真⑥ エニス邸から見たロサンゼルスダウンタウン

写真⑦ エニス邸の入り口まわりのテキスタイルブロック

写真⑧ エニス邸の窓まわりのテキスタイルブロック

写真⑨ エニス邸のテキスタイルブロック